

第 25 回山口県障害者スポーツ大会（キラリンピック）

ボッチャ競技 実施要領

1 競技規則

令和 7 年度に適用の全国障害者スポーツ大会競技規則（公益財団法人 日本パラスポーツ協会制定）によるもののほか、この要領に定めるところによる。

2 原則

- (1) ボッチャとは白ボール（以下：ジャックボール）に最も近いボールが勝ちとなり、総得点を競う競技である。

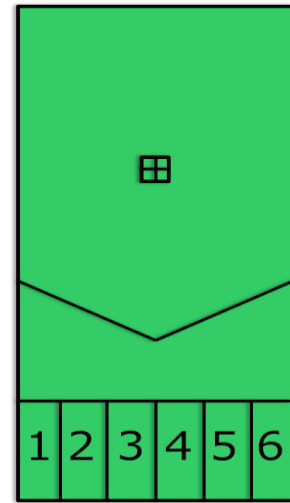
本要領に定める各項およびそれ以外は、審判長の判断を最終決定とする。

3 競技場

- (1) コートの大きさは 12.5 m × 6 m とする。
(2) 使用するスローイングボックスは 3 番 4 番のみとする。

4 用具

- (1) ボールは赤 6 個、青 6 個、ジャックボール 1 個で構成され、大会主催者が用意するボールまたは個人所有のボールを使用しコールルームで申告すること。
(2) ボールを投げることができない座位の選手は投球補助具（ランプ）を使用する。



- (3) 選手が個人所有の用具（ボール、ランプ、グローブなど）を使用する場合は大会の使用に適しているかどうか、試し合前に審判長によって確認され、適正であることを了解される必要がある。

基準を満たしていない場合は、競技には主催者が用意するボールを使用しなくてはならない。

5 出場選手

- (1) 個人戦のみ行う。
ただし、必要に応じてアシスタント、コーチを各 1 名配置することができる。

6 競技方法

(1) 試合形式

- ① 試合は 1 対 1 の個人戦を 2 エンドで行い、2 エンドの総得点で勝敗を決める。
② 2 エンド終了時に同点の場合はタイブレイク（ファイナルショット：1 球）で勝敗を決める。タイブレイクの投球時間は 1 分とする。

(2) 試合時間

- ① ジャックボールを含めた投球時間の合計は、1 エンドあたりそれぞれ 6 分とする。
② その他の時間（エンド間、タイブレイク等）の制限は定めない。

7 反則行為

以下の行為については、違反行為として投球したボールはリトラクション（除去）

となる。

- (1) ラインを踏む、もしくはボックスの外に足や補助具が接地した状態で投球したとき。
- (2) 審判の指示がある前に投球する。または指示がない選手が投球したとき。
- (3) ランプを使用する選手のランプオペレーターが、試合中にコートを見たり、競技に介入する所作や言動をしたと審判が認めたとき。

8 その他

- (1) コートルームはオンコートで試合開始5分前招集にて行う。
- (2) 各リーグ内の順位は次の順で決定する。
 - ① 勝った試合が多い選手
 - ② 勝ち試合が同じ場合は、直接対決で勝った選手
 - ③ ①②で決まらない場合は得失点差の多い選手
 - ④ ③で決まらない場合は総得点の多い選手上記①から④で決定しない場合は、タイブレイク（ファイナルショット制度）により順位を決定する。

9 開始式、表彰式

- (1) 開始式は、競技開始前に競技会場で行う。
- (2) 表彰式
 - ア 表彰式は、競技終了後、競技会場で行う。
 - イ 原則、各区分で1位から3位までの競技者にメダルを授与する。

ポッチャ スコアシート

コート		試合番号	
-----	--	------	--

選手名

--

赤 ・ 青

区分	ランプ	アシスト
座位		
立位		

選手名

--

赤 ・ 青

区分	ランプ	アシスト
座位		
立位		

得点	勝敗	エンド*	勝敗	得点
		1		
		2		
		タイブレーク (ファイナルショット)		
		合計		

この試合結果に同意します

この試合結果に同意します

終了時間	審判サイン